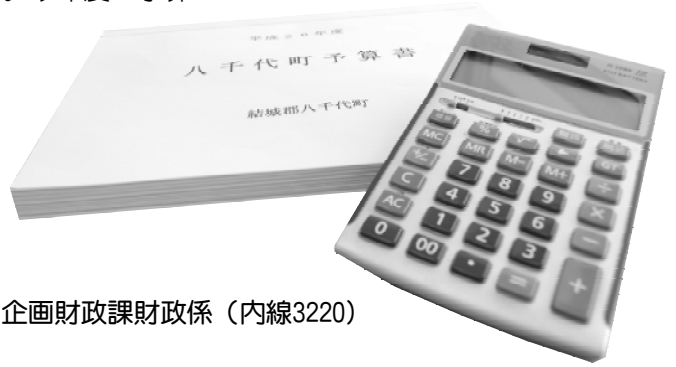


平成26年度

平成26年第1回町議会定例会で、平成26年度の予算が可決されました。今年度の予算の概要をお知らせします。



予算

■問い合わせ 企画財政課財政係（内線3220）

一般会計 歳入

町の自主財源は約4割
町税は前年度比2・3%増

一般会計の歳入は、前年度と比較して8億4千900万円（対前年度比11・7%増）の増加となっています。町税は、たばこ税の減額を見込んだものの、町民税や固定資産税は増収を見込み5千447万円増（対前年度比2・3%増）の23億7千397万円となっています。

地方交付税は、特別交付税の若干の伸びを見込み2千9

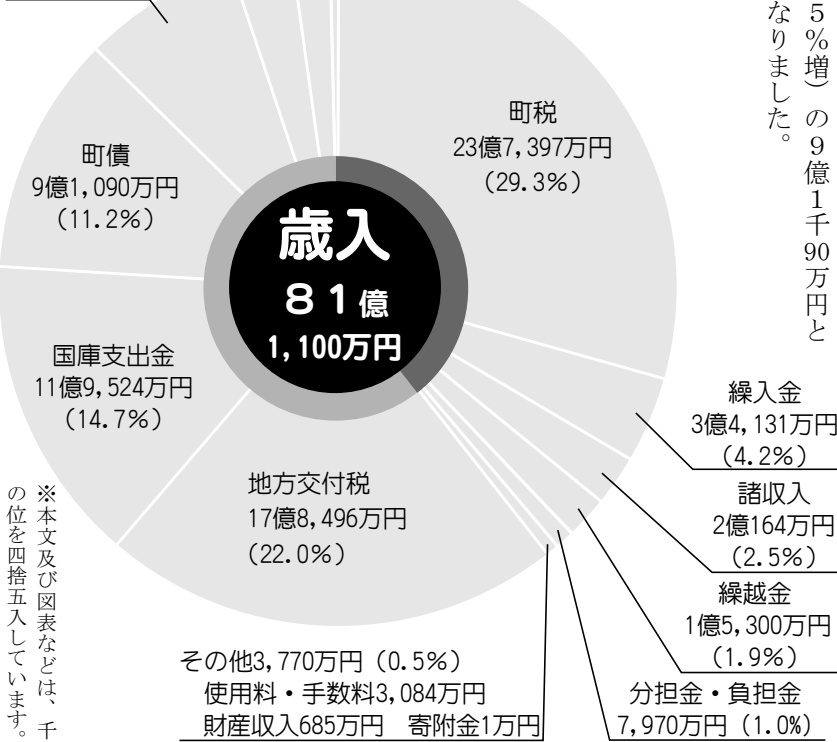
01万円増（対前年度比1・7%増）の17億8千496万円となっています。

繰入金は、財源不足への対応として財政調整基金と義務教育施設整備基金を合わせて8千630万円増（対前年度比33・8%増）の3億4千131万円となりました。

町債については、八千代第一中学校校舎改築や保育園施設整備などに伴い1億3千541万円増（対前年度比17・5%増）の9億1千90万円となりました。

その他の交付金 3,795万円 (0.5%)
自動車取得税交付金1,249万円 配当割交付金859万円
地方特例交付金748万円 利子割交付金444万円
交通安全対策特別交付金237万円 ゴルフ場利用税交付金198万円
株式等譲渡所得割交付金60万円

地方譲与税 1億4,727万円 (1.8%)
地方消費税交付金 2億3,109万円 (2.8%)
県支出金 6億1,627万円 (7.6%)



ポイント①

自主財源と依存財源

市町村の財源は、町税や使用料、手数料などの自主財源と地方交付税や国庫支出金、町債などの依存財源に分けられます。

自主財源が多いほど町の財政運営の自主性、安定性が確保できます。八千代町の自主財源は31億8千732万円です。全体の39.4%となります。

※本文及び図表などは、千の位を四捨五入しています。合計などの数値に若干の誤差が生じることがあります。

財政用語解説

【予算】：一定期間における収入及び支出を見積った計画をいいます。

【一般会計と特別会計】：一般会計は、地方公共団体の会計の中心をなすもので行政運営の基本的な経費を網羅して計上した会計です。特別会計は、料金などで経営する事業活動を一般会計と分けて、法律や条例で設置して経理する会計です。

【歳入】：その地方公共団体の会計年度（4月から翌年3月まで）の収入見込み額です。

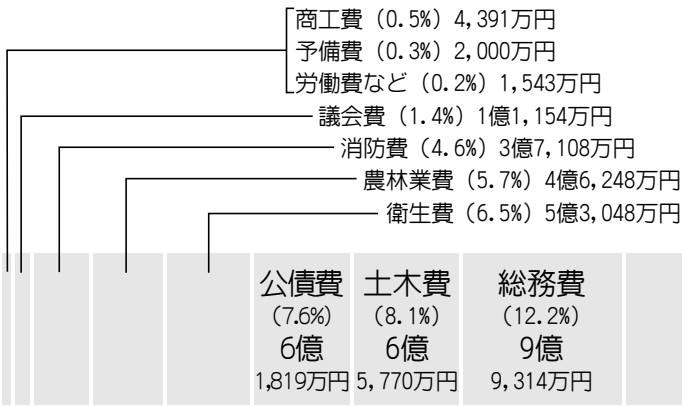
●町税：皆さんに納めていただく町民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税などです。

●繰入金：積立金（基金）から取り崩して運用するお金です。

●国庫支出金：国庫支出金と県支出金。国庫支出金は、市町村が行う特定の事業に対して国から交付される補助金。県支出金も特定の事業に対して県から交付される補助金です。国庫支出金は、あらかじめ使い道が決められています。

●地方交付税：地方公共団体が等しくその行うべき事務を遂行することができるよう、一定の基準により国が地方に交付する税をいいます。

●町債：町の借入金（借金）で、借り入れる期間が1年を超えるものをいいます。なお、地方公共団体の会計制度では、借金をしても現金が入ってくるという意味で収入として扱われます。



歳出 目的別グラフ

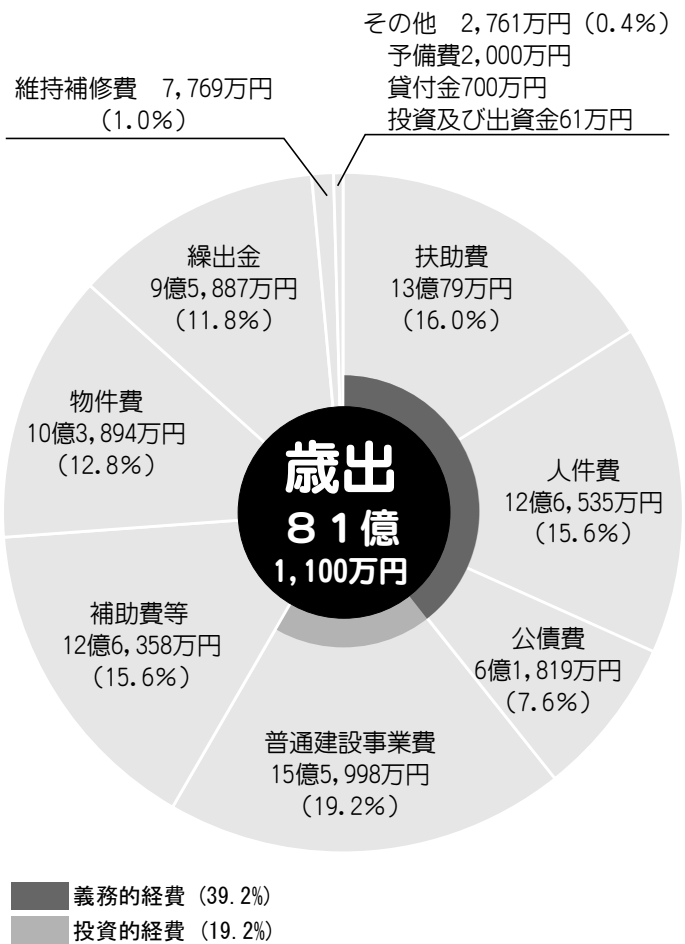
行政の支出を目的別に区分したものが目的別経費といわれています。行政事務配分の割合として見ることもできます。

一般会計 歳出
人件費、公債費は減少
 投資的経費が59・9%増加
 目的別グラフと性質別グラフで一般会計の歳出を示しました。義務的経費が31億8千433万円、歳出全体の39・2%を占め、前年度より3・5%低下しています。義務的経費にあたる扶助費は13億79万円で、歳出全体の16・0%を占め前年度より4千888万円増(3・9%増)となつています。人件費は、職員削減などにより前年度より8千686万円減(6・4

%減)の12億6千535万円、借金を返済するための公債費は、前年度より7千787万円減(11・2%減)の6億1千819万円となりました。一方、投資的経費となる普通建設事業費は、歳出全体の19・2%、15億5千998万円となり前年度と比較して59・9%増の高い伸びとなりました。高い伸びを示した主な要因は、八千代第一中学校改築設計委託事業、下結城小学校トイレ改修事業の実施によるものです。

歳出 性質別グラフ

性質別経費…行政の支出を経済的な性質別に区分したものが性質別経費といわれます。人件費・扶助費・公債費などは支出の削減が容易でないため、義務的経費に分類されます。



ポイント②

義務的経費と投資的経費

市町村の経費には、削減が難しい人件費や扶助費、公債費の義務的経費と支出の効果が資本形成に向けられる投資的経費があります。

義務的経費の増加は、財政構造の硬直化を示すものですが、扶助費は人口の高齢化に伴い今後も増加すると思われる。

【目的別経費】

- 民生費：主に高齢者、障害者、児童福祉などに使われる経費です。
- 教育費：学校や体育館など教育施設の整備や運営に使われる経費です。
- 総務費：選挙や税金の徴収、戸籍、住民基本台帳など行政全般の事務に関する経費です。
- 土木費：橋や道路、公園などの整備に使われるお金です。
- 公債費：町債(借金)の返済に充てられる経費です。
- 衛生費：ごみ処理や母子保健、検診などに使われる経費です。
- 農林業費：農家の支援や農地の整備などに使われるお金です。
- 消防費：消防施設の整備費や広域消防への負担金などです。
- 議会費：議会の運営などに使われる経費です。
- 商工費：商工業者などの支援に使われる経費です。
- 労働費：雇用対策など、勤労者の支援に使われる経費です。

【性質別経費】

- 扶助費：社会福祉、老人福祉、児童福祉、生活保護費に使われる経費です。
- 人件費：職員の給料や議員の報酬などに使われる経費です。
- 公債費：町債(借金)の返済に充てられるお金です。
- 普通建設事業費：公共施設の新増設や道路などを整備するためのお金です。
- 物件費：備品の購入や事業の委託費などに使われる経費です。

国保・後期高齢・介護が高い伸び

特別会計は、全会計の合計額が65億6千846万円となり、前年度に比較して3千249万円（前年度比0.5%）の増加となっています。

そのうち年々増加傾向にあるのが国民健康保険特別会計です。今年度は29億8千789万円、前年度に比較して1億6千878万円（前年度比6.0%）の増加となっています。後期高齢者医療特別会計も858万円（前年度比5.4%）の増加となっています。国民健康保険財政は、高齢化や医療技術の高度化などによる医療費の増加により、依然として厳しい状況にあります。町ではこうした厳しい財政事情を考慮して今年度も特定健診の受診率向上を目指して、生活習慣病の予防や健康の保持増進を図るためのさまざまな施策を推進します。

また介護保険特別会計も6千136万円（前年度比4.1%）の増加となっています。町では、地域包括支援センターが中心となって、介護予防のための教室を開催し、高齢者の支援をしていきます。

特別会計		予算額	対前年度比較
国民健康保険事業		29億8,789万円	1億6,878万円
後期高齢者医療事業		1億6,698万円	858万円
介護保険事業		15億7,173万円	6,136万円
中央土地区画整理事業		2億3,668万円	-6,754万円
農業集落排水事業		5億7,721万円	-2億1,069万円
下水道事業		4億1,313万円	3,264万円
水道事業	収益的	4億7,448万円	6,394万円
	資本的	1億4,035万円	-2,458万円

ポイント◎

特別会計と企業会計

特別会計とは、特定の歳入歳出を一般の歳入歳出と区別して別個に処理するために設けられる会計です。国民健康保険事業や介護保険事業等、法律によりその設置が義務付けられているものと、条例により設置するものがあります。

企業会計は、民間企業と同じようにその事業収入で支出を賄う独立採算で事業を行う会計で、当町では水道事業が該当します。

平成26年度予算注目事業

今年度予算の中から注目事業をピックアップしてご紹介します。

Pick Up



1. 誰もが健やかに安心して暮らせるまち

●医療福祉費支給助成事業

…2,009万円

県の行う医療福祉費支給の対象範囲を、町独自で拡大します。平成26年10月から支給対象を中学3年生までとします。

●私立保育所施設整備事業

…1億2,816万円

安心して子どもを生み育てることがで

きる子育て環境の整備として、八千代保育園の園舎改築を補助します。

●出産子育て奨励金 …450万円

第3子以上の子を出産された方に、一人につき30万円までの奨励金を支給します。支給時期は、出産後、3歳の誕生日後、小学校入学後に10万円ずつとなります。



2. 緑豊かで、安全・快適な生活環境のまち

●消防分団詰所改築事業…2,150万円

安心・安全に暮らせる町を目指して、消防力の強化と防災施設の整備を進めます。今年度は、老朽化した第4分団の詰所を改築します。

●道路整備事業…2億2,648万円

二級町道3号線をはじめとする幹線道路や筑西幹線道路の整備を推進します。一般町道についても維持補修、排水整備に努めます。

3. 町に愛着を持ち、意欲あふれる人を育むまち

●下結城小学校トイレ改修事業

…4,720万円

老朽化した下結城小学校のトイレの改修工事を実施します。

●八千代第一中学校校舎改築事業

…10億4,219万円

八千代第一中学校の新校舎建設及び旧校舎の解体、撤去の工事を実施します。

事業期間は平成24年度から平成27年度までです。

●東中学校校舎改築事業

…5,000万円

東中学校の基本設計及び実施設計を行います。事業期間は、平成26年度から平成29年度までです。



4. 交流・連携で広げる、にぎわいと活力のあるまち

●いばらきの園芸産地改革支援事業

…1,083万円

生産・流通体制の充実を図り、地場農産物・加工特産品のブランド化を推進します。

●憩遊館管理運営事業

…3,885万円

八千代グリーンビレッジを中心とした

観光資源を活用して、町のイメージアップと観光の振興を図ります。

●霞ヶ浦用水事業

…5,224万円

農業用水の安定供給を図るため、霞ヶ浦用水事業を推進します。



5. みんなで築く、協働のまち

●OA化整備事業…1億2,120万円

各業務システムの利活用を図りながら電子自治体の構築を推進し、行政サービスの向上に努めます。また、平成27年度に導入されるマイナンバー制度に向けてシステムの改修を図ります。

●コミュニティ推進事業…5,400万円

コミュニティ推進協議会の活動を中心に、地域の連帯感を醸成し、主体性に富んだ地域活動を促進する環境づくりに努めます。



生井消防団長が消防庁長官表彰

八千代町消防団の生井伸一団長が平成25年度消防功労者、消防庁長官表彰で永年勤続功労章を受章しました。3月7



章記を手にする生井消防団長（左）

日、役場町長室で大久保司町長に受章の報告をしました。報告を受けた大久保町長は、生井団長の長年の功績をたたえました。

生井団長は、昭和54年に八千代町消防団に入団、平成3年に分団長となりました。平成8年からは副団長となり団長の補佐役として消防団の活動を影で支えました。平成23年からは、消防団長となり団員の先頭に立って活躍されています。生井団長は「多くの思い出があるが、住民の生命、財産を守るという使命があるのであつという間の期間でした」と話していました。

女性消防隊が火災警報器設置の推進

3月4日、さわき幼稚園女性消防隊（高野ひろみ隊長）が役場庁庭で、住宅用火災警報器設置の推進キャンペーンを実施しました。

さわき幼稚園女性消防隊は、平成13年4月に園児の母親と職員で結成。現在40名の隊員で活動しています。女性ならではの視点で、町防災訓練での消火器取り扱いや避難訓練のサポートをしています。



警報器設置を呼びかける女性消防隊の皆さん